

別府の危険な熱さの温泉はどのくらい前から「地獄」と呼ばれているの？

「地獄」という言葉は、平安時代（794 年～1185 年）から別府の熱い温泉を表すのに使われていたようですが、正確な起源についてははっきりとした記録は残っていません。専門家によると、地獄という言葉は仏教に古くからある「八熱地獄」の 1 つである「炎熱地獄」に由来しているそうです。それから何世紀にもわたり、「地獄」という言葉は、高温ガスや熱湯などの地獄のような場所を表す一般的な用語としてしばしば使用されてきました。

「日本三代実録」によると、別府の鶴見岳は 867 年に大規模な噴火を起こし、噴き出た熱いガスによって多くの人々が亡くなったそうです。その約一世紀後に出版され広く普及した仏教の本「往生要集」には地獄の絵が描かれており、人々の間で視覚的なイメージとしての地獄が根付いたのです。これら 2 つの出来事が別府の「地獄」と、人々の心の中にある地獄という概念を結びつけ、そして今でも別府で使われている「地獄」という名前につながっていると考えられます。